



野菜をビニルハウスで作るのはなぜ

ビニルハウスの特色

ビニルハウスを利用して野菜、草花、はち物、果樹などを育てることをハウスさいばいといひます。野菜では、キュウリ、トマト、イチゴが最も多く、果樹ではブドウを中心に、モモ、ミカンなど、いろいろなものがさいばいされるようになりました。

ビニルハウスは、パイプ、木材などで骨組みを作り、それをビニルシートでおおい、その中で、野菜、草花、はち物、果樹などを育てる簡単な温室の一つです。

ビニルハウスは、簡単に作ることができ、利用目的によって、大小いろいろあります。ただし、台風や雪などには弱いなどの欠点があります。

季節をずらして野菜を作り、高く売るため

温室やビニルハウスなどを使わないで、ふつうの畑で野菜や草花をさいばいすることを、「ろ地さいばい」といひます。ろ地さいばいで野菜をさいばいすると、日本各地で、同じ時期に同じ野菜がとれ、大量に出回ることになります。すると、野菜の値段が下がってしまひます。

同じ種類の野菜が大量に出回る時期をはずして出荷すると、高く売ることができます。そこで、ビニルハウスを利用して、ある野菜が出回る時期よりも2～3か月も早く作ったり（促成さいばい）、ある野菜がとれなくなつてから2～3か月おそく作る方法（抑制さいばい）がとられています。そのために、1年中、トマトやキュウリが食べられます。

ビニルハウスを利用すれば、野菜を高く売ることができますが、そのための設備を作る費用や石油代などの出費もかかることになります。（監修・青木 国夫）

